様式３－７　　【新規】H.２９～H.３０

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成２９年度）
― 研究課題３（４）ＥＳＤ ―

都道府県・指定都市番号	27	都道府県・指定都市名	大阪府

（公立）・ 私立 ・ 国立 （○で囲む）

1　研究指定校の概要

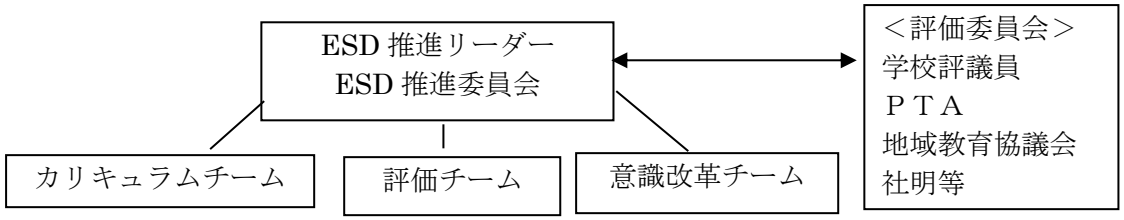
ふりがな 学校名	寝屋川市立　第十中学校				ふりがな 校長氏名	つくだ　ちはる 佃　千春
所在地	〒572-0003　大阪府寝屋川市成田南町 20 番 7 号 電話　072-835-9296　FAX　072-834-6993 e-mail　dai10-p@school.kyoiku.city.neyagawa.osaka.jp					
（H29.4.1 見込）	１年	２年	３年	計	（H29.4.1 見込） 教員数　２４名	
学級数	4	4	4	12		
生徒数	135	139	151	425		
特記事項						

2　研究主題等

公募課題番号	「３（４）」
学校における研究主題	ホールスクールアプローチで育む **自分を大切に　ひとを大切に　未来を大切にできる生徒の育成**
研究主題設定の理由	「持続可能な開発のための２０３０アジェンダ」（ＳＤＧｓ）では、17 の目標が示されているが、このうち目標４は「質の高い教育の提供」である。これからの変化の激しい社会を生き抜くためにも、生徒たちは、知識と技能を身につけ、思考力・表現力・判断力を養い、主体性をもって多様な人々と協働できる態度などの資質・能力を身につけなければならない。 本校ではこれまで国際理解教育、環境教育、食育等、ＥＳＤの視点を生かした取組を進めてきたが、３年間の系統性を生かしたものには至っていない。また、全国学力・学習状況調査においても、「地域や社会で起こっている問題に関心がある」の問いについては６７％と全国平均以下である。 ＥＳＤの推進は未来への約束である。ユネスコスクールとして、地域や社会とも連携しながら、学校全体で取り組む必要がある。さらに様々な探究活動を通して、「自分を大切にする心」や「他者と協働しながら進んで参画する態度」を身につけることで、地域や社会に貢献し、将来にわたって持続可能な社会を生きぬく人になりえると考える。
研究の内容	**１．ＳＤＧｓの目標を意識した３つのキーワードによるカリキュラムの再構築** ＳＤＧｓの実践計画表の下にＥＳＤカレンダーを作成し、「地域と世界を知る」「生き方を見つめる」「平和を求めて」等、総合的な学習の時間と各教科の学びとの関連について視覚化し、すべての学びを「care」（気づかい）「communication」（つながり）「action」（行動）といった単元を貫くキーワードで見つめ直し整理することで、より系統的、多角的な取組へと変革させる。 **２．つけたい力を明確にした指導と評価の一体化** 「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた問題解決的な授業実践によって、体系的な指導をめざす。また、３年間を通した探究活動での評価規準を明確にし、その結果つけたい力がどのように身についたのかを測る評価活動を研究する。 **３．定点観測による生徒の変容の把握と教職員の指導力の向上** 国立教育政策研究所が示す７つの身に付けたい力のうち、特に②「多面的・総合的に考える力」、⑤「他者と協力する力」、⑦「進んで参加する態度」の３点を重視する。身についたのか明らかにするために、国立教育政策研究所が示す「意識調査」のア～クを活用し、「身の回りの出来事を様々な側面や立場から考えている」「みんなで何かをするのは楽しい」「授業に主体的に取り組んでいる」等について毎学期末に生徒、教職員の意識の変化を測り、ＰＤＣＡ×３のサイクルでデータを基にした点検・見直しを行い、発表を通してその成果を保護者・地域に還元する。

3　研究体制等

・ＥＳＤ推進部を新たに置き、各学年を一つの研究組織として進め、外部評価を含めた評価組織をおく。



・ＥＳＤについて、同志社女子大学　藤原孝章教授にご指導いただく。

4　研究計画

	実施時期	取組の計画	期待される成果
平成29年度	1学期 5月	＜教育活動の検証＞ 教員研修「ＳＤＧｓ」について（藤原孝章教授） 教員研修「ＥＳＤのものさしでの教育活動の整理」 ＳＤＧｓの目標との関連一覧の作成 生徒アンケート（能力・態度・心力）	教員のＥＳＤに対する認識・理解の促進 目標の共有化 問題解決的授業への意識改革
	2学期	＜ＥＳＤの視点での実践Ⅰ＞ 教員研修「協働的な学びとＥＳＤ」 地域との協働による活動の深化 学習発表会による成果の発信 生徒アンケート（能力・態度・心力）	ＥＳＤ授業実践への共通認識 地域への参画による学校支援の強化 生徒の自己有用感の向上
	3学期	＜年間のまとめと次年度への計画＞ ＥＳＤカレンダー　中間のまとめ作成 生徒アンケート（能力・態度・心力） 次年度の計画作成	成果と課題の共有から次への展望へ 学校力の向上
平成30年度	1学期	＜ＥＳＤの視点での実践Ⅱ＞ 各教科・領域での授業実践 教員研修「ＥＳＤの視点での望ましい評価」 ＥＳＤの視点での問題解決型授業 生徒アンケート（能力・態度・心力）	課題意識を持った授業実践 評価への共通理解の促進
	2学期	＜ＥＳＤでの視点での授業実践Ⅲ＞ ＥＳＤカレンダーの再構築 地域との協働による主体的な活動 研究発表会による成果の発信 生徒アンケート（能力・態度・心力）	教科横断的取り組みによる教育活動の深化 生徒の自己有用感の向上
	3学期	＜研究のまとめ＞ 生徒のアンケートと結果の分析 最終のまとめ作成	成果と課題の共有から次への展望 地域の中での学校力の向上

5．研究のまとめの見通し

「多面的・総合的に考える力」を国立教育政策研究所のアンケートのカ「身の回りの出来事を様々な側面や立場から考えている」でとらえると、平成29年3月時点で1年68.9%、2年70.4%であった。この数値で80%以上を目標値とし、伸ばしたい。また同時に、「他者と協力する力」「進んで参加する態度」についてもアンケートのイ・ウの項目とリンクさせ、定点観測を行う。

教科、総合的な学習の時間や、様々な教育活動を通してＥＳＤを推進することにより、「物事を地球規模で考え、地域に貢献できる生徒」の育成ができるものと考える。その姿を2年次に保護者・地域の方々や評価委員会の方々に見ていただくことで、客観的評価をいただき成長を捉えたいと考える。